

令和3年

火災・救急活動の概要

【確定版】

高槻市消防本部

1 火災

(1) 火災件数と出火率

◎火災は 15 件の減少

令和 3 年中に高槻市内で発生した火災は 55 件で、前年の 70 件と比べ 15 件の減少となった。
出火率（人口 1 万人当たりの出火件数）は 1.57 で、全国平均（令和 2 年中）2.73 と比べ 1.16 ポイント低い。

(2) 火災種別

◎建物火災が 45.5%

令和 3 年中の火災件数のうち建物火災が 25 件で、全火災の 45.5%を占めている。

※ 件数割合の%は小数第 2 位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にはならない。

建物火災	25 件 (45.5%)
林野火災	1 件 (1.8%)
車両火災	8 件 (14.5%)
その他の火災	21 件 (38.2%)

(3) 焼損面積

焼損床面積は減少、焼損表面積は減少

建物火災は 25 件で前年の 48 件から 23 件減少し、焼損床面積は 452 平方メートルで、前年の 807 平方メートルに比べ減少となった。

焼損表面積は 59 平方メートルで、前年の 127 平方メートルに比べ減少している。

(4) 損害額

損害額は減少

令和 3 年中の損害額は 41,673 千円で、前年の 125,651 千円から比較すると 83,978 千円の減少となった。

1 件当たりの損害額は 758 千円で、前年の 1,795 千円より 1,037 千円の減少である。

※ 損害額の整数第 3 位を四捨五入

(5) 火災による死傷者

◎死者は 2 人

令和 3 年中の火災による死者は 2 人（前年 2 人）で、負傷者は 5 人（前年 10 人）であった。

また、負傷者 5 人のうち、重症者は 0 人（前年 0 人）、中等症者が 1 人（前年 3 人）、軽症者が 4 人（前年 7 人）、30 日死者が 0 人（前年 0 人）である。

(6) 原因別に見た火災発生状況

◎令和 3 年は「放火（疑いを含む）」が 1 位に

ア 令和 3 年中の全火災（55 件）を出火原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第 2 位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にはならない。

放火（疑い 5 件を含む）	9 件 (16.4%)
こんろ	7 件 (12.7%)
たばこ	6 件 (10.9%)
たき火	5 件 (9.1%)
ストーブ	2 件 (3.6%)
電灯・電話等の配線	2 件 (3.6%)
火入れ	2 件 (3.6%)
排気管	2 件 (3.6%)

電気機器	2件 (3.6%)
炉	1件 (1.8%)
配線器具	1件 (1.8%)
火遊び	1件 (1.8%)
マッチ・ライター	1件 (1.8%)
溶接機・切断機	1件 (1.8%)
衝突の火花	1件 (1.8%)
その他	8件 (14.5%)
不明	4件 (7.3%)

イ 建物火災 (25 件) を原因別にみると以下のとおりである。

※ 件数割合の%は小数第2位を四捨五入

※ 件数割合の%は四捨五入しているため、合計は必ずしも 100%にはならない。

こんろ	7件 (28.0%)
たばこ	3件 (12.0%)
ストーブ	2件 (8.0%)
電灯・電話等の配線	2件 (8.0%)
電気機器	1件 (4.0%)
配線器具	1件 (4.0%)
溶接機・切断機	1件 (4.0%)
炉	1件 (4.0%)
その他	5件 (20.0%)
不明	2件 (8.0%)

(7) まとめ

令和3年中の火災は、55件で前年の70件に比べ15件減少している。従前に引き続き地域住民等に対して防火意識の高揚を図り、より一層の火災予防に取り組む必要がある。

火災種別でみると、建物火災が25件で前年より23件減少しており、焼損床面積や損害額も前年より減少している。

火災による死者は2人で、前年と同数の2人であった。負傷者は5人で、前年より5人減少している。

出火原因は、「放火(疑いを含む)」が9件で1位、「こんろ」が7件で2位、「たばこ」が6件で3位、と続いている。「放火(疑いを含む)」は、前年の9件と同数の9件であったが、消防、警察、自治会、自主防災組織、事業所等が取り組んでいる「放火されにくい地域環境作り」を継続し、放火撲滅に向けた積極的な対策をより一層推進していかなければならない。

令和3年火災概要(対前年比)

区 分	単位	令和3年	令和2年	増減 (C)	増減率 (%)		
		(A)	(B)	(A) - (B)	(C) / (B) ×100		
出火件数		55	70	△ 15	△21.4%		
建物火災	件	25	48	△ 23	△47.9%		
林野火災		1	0	1	—		
車両火災		8	10	△ 2	△20.0%		
その他の火災		21	12	9	75.0%		
焼損棟数			33	71	△ 38	△53.5%	
全 焼	棟	2	6	△ 4	△66.7%		
半 焼		1	5	△ 4	△80.0%		
部分焼		5	16	△ 11	△68.8%		
ぼ や		25	44	△ 19	△43.2%		
焼損面積	建	床面積	m ²	452	807	△ 355	△44.0%
	物	表面積	m ²	59	127	△ 68	△53.5%
		林 野	a	7	0	7	—
死 者	人	2	2	0	0.0%		
負傷者(30日死者含む)	人	5	10	△ 5	△50.0%		
り災世帯		35	75	△ 40	△53.3%		
全 損	世帯	3	14	△ 11	△78.6%		
半 損		0	7	△ 7	△100.0%		
小 損		32	54	△ 22	△40.7%		
り災人員	人	77	148	△ 71	△48.0%		
損害額		41,673	125,651	△ 83,978	△66.8%		
建物(収容物含む)	千円	39,860	120,988	△ 81,128	△67.1%		
林野		0	0	0	0.0%		
車両		459	4,065	△ 3,606	△88.7%		
その他(爆発含む)		1,354	598	756	126.4%		
出火率		件	1.57	2.00	△ 0.43	△21.5%	
年	令和3年			令和2年			
主な出火原因	1	放火(疑いを含む)	9件	1	たばこ	14件	
	2	こんろ	7件	2	放火(疑いを含む)	9件	
	3	たばこ	6件	3	こんろ	4件	
	4	たき火	5件	3	電気機器	4件	
				3	配線器具	4件	

過去5年間の火災状況

区分別		年別	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
火災件数			81	62	63	70	55
内 訳	建 物		48	38	36	48	25
	林 野		0	0	1	0	1
	車 両		10	4	6	10	8
	その他		23	20	20	12	21
	爆発（再掲）					1	
焼損棟数（棟）			61	55	52	71	33
内 訳	全 焼		9	8	11	6	2
	半 焼		0	3	2	5	1
	部分焼		11	12	5	16	5
	ぼ や		41	32	34	44	25
焼損面積	建 物	床面積（㎡）	977	687	1,457	807	452
		表面積（㎡）	52	177	25	127	59
	林 野（a）	0	0	8	0	7	
り災世帯（世帯）			63	39	37	75	35
内 訳	全 損		15	7	5	14	3
	半 損		10	4	1	7	0
	小 損		38	28	31	54	32
り災人員（人）			126	78	88	148	77
損 害 額（千円）			103,985	91,007	129,927	125,651	41,673
内 訳	建 物（収容物含む）		74,944	90,630	77,119	120,988	39,860
	林 野		0	0	0	0	0
	車 両		25,125	22	7,008	4,065	459
	その他（爆発含む）		3,916	355	45,800	598	1,354
死 者（人）			1	1	3	2	2
負 傷 者（人）			24	18	12	10	5
30日死者（人）			0	1	1	0	0
覚 知 別 件 数			81	62	63	70	55
内 訳	火災報知専用電話（119）		50	40	29	37	25
	加 入 電 話		4	1	2	3	0
	警 察 電 話		4	6	7	6	7
	事 後 聞 知		20	13	22	21	20
	そ の 他		3	2	3	3	3

2 救 急

(1) 救急出動件数

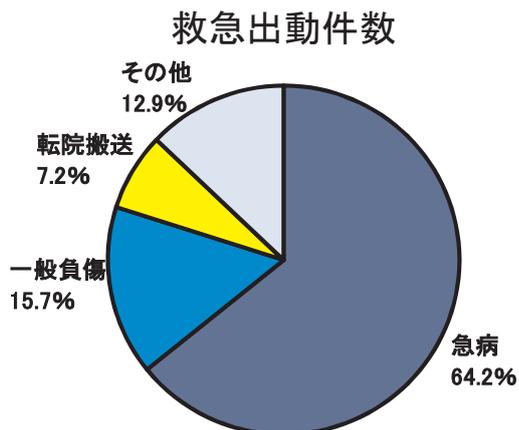
◎出動件数は減少

令和3年中の救急出動件数は20,098件で前年20,105件に比べ7件(0.03%)減少した。

また、1日平均にすると約55件、約26分に1回の割合で出動したことになる。

出動件数を事故種別毎にみると、第1位が急病で12,914件(64.2%)、第2位が一般負傷3,166件(15.7%)、第3位が転院搬送1,457件(7.2%)の順となっている。(右図参照)

そのうち、特別救急隊の出動件数は1,032件であった。



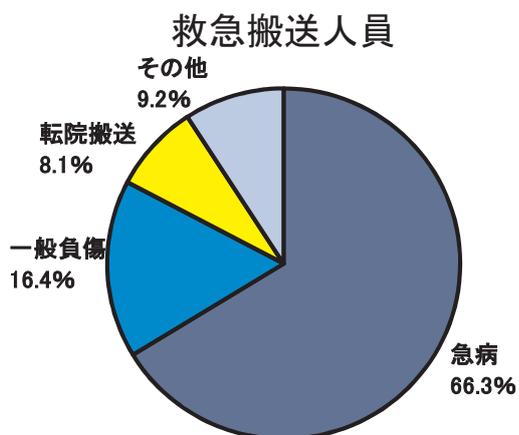
(2) 救急搬送人員

◎搬送人員は増加

令和3年中の搬送人員は17,745人で、前年17,550人に比べ195人(1.1%)増加した。

また、1日平均約49人、市民の約20人に1人が救急車で医療機関へ搬送されたことになる。

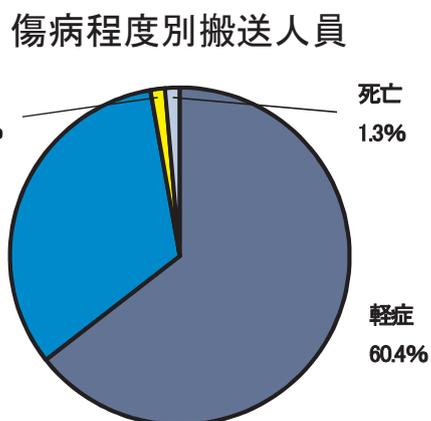
搬送人員を事故種別毎にみると、第1位が急病で11,771人(66.3%)、第2位が一般負傷で2,926人(16.4%)、第3位が転院搬送で1,453人(8.1%)の順となっている。(右図参照)



(3) 傷病程度別搬送人員

◎軽症傷病者は10,725人

令和3年中の搬送人員17,745人を傷病程度別にみると、軽症(傷病の程度が入院加療を要しない)が10,725人(60.4%)で最も多く、次いで中等症(傷病の程度が死亡、重症又は軽症以外のもの)が6,557人(37.0%)、重症(傷病の程度が3週間以上の入院加療を要するもの)が224人(1.3%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)が239人(1.3%)の順となっている。(右図参照)



(4) まとめ

令和3年中の高槻市における救急活動は、前年と比較すると、ほぼ横ばいではあるが出動件数はやや減少、搬送人員はやや増加となった。

搬送人員を傷病程度別にみると、依然として軽症傷病者が多く、全搬送人員の60.4%を占めており、全国平均45.6%(令和2年中)に比べ高い割合を示している。

今後の救急需要に対し全国平均に比べ高い割合を示している軽症傷病者への対応として、救急車の適正利用について市民等への働きかけを継続して行う必要がある。

救急概要

区分 事故種別		出動件数(件)			搬送人員(人)		
		3 年	2 年	増 減	3 年	2 年	増 減
合 計		20,098	20,105	△ 7	17,745	17,550	195
火 災		22	48	△ 26	3	10	△ 7
自然災害		2	0	2	2	0	2
水 難		12	6	6	1	1	0
交 通		1,261	1,174	87	1,171	1,104	67
労働災害		150	167	△ 17	142	156	△ 14
運動競技		92	78	14	93	77	16
一般負傷		3,166	3,263	△ 97	2,926	2,997	△ 71
加 害		56	65	△ 9	44	54	△ 10
自損行為		202	170	32	139	114	25
急 病		12,914	12,854	60	11,771	11,708	63
そ の 他	転院搬送	1,457	1,334	123	1,453	1,329	124
	医師搬送	603	685	△ 82	0	0	0
	資器材搬送	1	36	△ 35	0	0	0
	その他	160	225	△ 65	0	0	0

3 救 助

	火災	交通 事故	水難 事故	自然災害 事故	機械に よる事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	その他	合計
出動件数(件)	5	26	10	0	1	151	0	142	335
活動件数(件)	5	7	4	0	0	134	0	55	205
救助人員(人)	2	7	2	0	0	138	0	20	169

4 その他

(1) 警戒・支援出動等

区分	件数	警戒・支援等の内容
予防出動	76件	火災危険のあるもの(危険物・ガス漏洩等)
誤虚報出動	43件	火災出動したが結果誤虚報であったもの
支援出動	655件	救急等の支援活動
その他出動	363件	上記以外(怪煙調査・エンジンオイル漏洩等)
合計	1,137件	

(2) 応援出動

応援先	件数	応援出動の内容
島本町	58件	火災出動2件・救急出動52件・その他出動4件(高速道路含む)
茨木市	10件	火災出動2件・救急出動7件・その他出動1件(高速道路含む)
摂津市	7件	火災出動3件・救急出動4件
大山崎町	5件	救急出動4件・その他出動1件(高速道路含む)
合計	80件	

(3) その他の災害出動

区分	件数	その他の災害の内容
風水害出動	10件	大雨に係る災害対応等

※ 全ての表中の△印は減少もしくは負数を表す